

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	武雄市立武雄中学校
1 前年度 評価結果の概要	・フォーサイト手帳の活用を主軸として、主体的に学ぶ生徒の育成を目指す。 ・生徒会活動を主軸として生徒主体の仲間づくり、学校づくりをさらに推進する。 ・全学年を通した系統的な「総合的な学習の時間」の充実、生徒、保護者、地域の三者連携による特色あるカリキュラムを通して、郷土愛の醸成をさらに推進する。
2 学校教育目標	高い志と誇りをもち、共(友)に学ぶたくましく生徒の育成
3 本年度の重点目標	①フォーサイト手帳の活用促進を通して、キャリア教育の一層の充実を図り、PDCAサイクルを生かし、主体的に学ぶ態度を身に付けさせる。 ②出番、役割、承認の「開発的生徒指導」を活用した生徒主体の生徒会活動を充実し、生徒主体の仲間づくり、学校づくりを行わせる中で「発達支持的生徒指導」を実践する。 ③教職員がウェルビーイングの実現を目指すことを通して健康的に日々の業務に従事できる環境整備に努め、質の高い教育を実践する。

4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
重点取組			具体的取組	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的な学習者の育成へ向けた個別最適な学びと、協働的な学びの充実～DXとフォーサイト手帳の活用を通して～	○ICTを効果的に活用して、自分に合った学習に取り組んでいると回答した生徒70%以上 ○私は、友達の見聞を聞いて考えを広げたり深めたりしながら課題解決に取り組んでいると回答した生徒70%以上 ○フォーサイト手帳を活用して計画を立てて学習や生活をしていると回答した生徒70%以上	・業績評価において授業改善のための評価指標を立て、授業実践を行う。 ・朝の会と帰りの会でフォーサイト手帳を活用して生徒に見通しと振り返りをさせるための指導と評価を行う。	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○支持的風土を醸成する取り組みをしている教師80% ○「自分の役割や出番があって楽しい」と回答した生徒80%以上	・学級活動の充実を図る。実態に応じて構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、計画的に行うことで、よりよい人間関係をつくる。 ・生徒会活動や学校行事等さまざまな場面において、生徒に役割と出番を与え、認め合う場を設定する。	
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒90%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員100%	・毎月第3木曜日にいじめアンケートを実施する。 ・アンケートに記載された内容は漏れなく聞き取りを行い、複数職員で早急に対応する。 ・いじめの認知について、教職員の共通認識を図り、適切な支援・指導及び未然防止に全職員で取り組む。 ・いじめ対応に関する研修会を全職員向けに9月に実施する。 ・臨場指導を行う。	
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒の学習活動においては臨場指導を行い、評価方法を工夫して生徒に伝える。 ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育を期間や指導方法を示して計画的に行う。 ・各種体験活動では、生徒に見通しと学びの振り返りを取り入れた活動を行わせる。	
	○教育相談体制の充実	○不登校生徒6.0%以下	・教育相談部連絡会を週に1回開催し、気になる生徒に対する初期対応及び深刻な問題へ発展しないための組織的対応を行う。 ・保健室来室者や欠席者、気になる生徒を全職員で把握し、対応する体制を強化し、予防や早期発見を図る。 ・スクールカウンセラーの活用を工夫し、全生徒への支援を充実させる。 ・ほっとルームの効果的な活用を工夫し、生徒それぞれに合った支援体制をつくる。	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒92.3%以上 ○朝食をとって登校する生徒88.3%以上	・食事、健康に関する調査の実施 ・食育だよりの発行 ・食育にかかわる授業実践	
	○健康の維持・増進	○「睡眠時間を6時間以上とっている」と回答した生徒87%以上	・睡眠の大切さを伝え、睡眠時間を6時間以上とることを目安として健康増進を図る。 ・保健だよりを発行する。 ・生徒の生活状況を聞き取り個別指導を行う。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・管理職は業務記録表やヒアリング等をもとに相談や指導を行い、時間外労働時間を月45時間以内にすため具体的な業務改善を推進する。 ・働き方改革プロジェクトチームを立ち上げ、業務改善策を提案していく。	
	○適正な部活動の運営	○「休養日を適切に設定し、活動と休養のバランス(活動時間は週8時間)を図った部活動運営を行った」と回答した教師95%以上	・部活動運営計画に則り、休養日を設定する。 ・毎月第3日曜日の「県下一斉部活動休養日」の実施。	
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・個別の支援計画・指導計画を作成し活用する。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
重点取組			具体的取組	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○探究学習の充実	◎自らの生き方を考えるため、問いや課題を見出し、探究的に学習し行動して解決する態度の育成	○「この時代を生きる自分の進路・生き方についてよく考えることができた」と回答した生徒80%以上	・学年の段階に応じ、地元各界のゲスト・ティーチャーに学ぶ(講話・活動等)機会を設ける。 ・調査活動など実践方法、得た成果や派生して生まれた新たな課題、成果を表現する方法等々について、フォーサイトを活用し記録させる。	
○安全教育の充実	○安全な生活環境の確保	○「学校は安全に過ごせる」と回答した生徒85%以上	・安全点検・避難訓練を実施し、生徒・教職員の安全の確保、交通事故・生活事故防止に対する意識を高める。 ・防災教育を実施する。 ・生活部の保護者と連携し、年に3回程度朝の交通指導を行い、交通事故の未然防止につなげる。	